

「心の理論研究グループ」の立ち上げプロジェクト

環境情報学部2年 青山敦研究室所属

小山雄太郎

実施概要

ヒトの心を理解しようとする枠組みのうち、心の理論と呼ばれる考え方が広がりを見せている。心の理論とは心理学や認知科学の文脈で考案された理論で、ヒトがどのように他者の心を推論し自身の心を認知するかについての記述や、意識の進化的な起源と物理的な基盤についての説明を与える事が期待されている。勃興間もない理論であり、精力的に

研究に取り組みば学部生でも学術的に意味のある知見を発見できる余地が残されていると考えられる。本プロジェクトでは SFC 内に心の理論研究グループを立ち上げ、SFC の学生が心の理論に関して、学術論文として結実するような研究を行える環境を整えることを目的とした。具体的には京都大学が意識学のススメ(<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/event2/2015/10/2015-1.php>)と称して2日間に渡って開催した研究者や大学院生向けの集中講義に、青山研を主体とする心の理論に関心がある SFC の学生らと共に参加し、心の理論の研究を牽引する研究者の講義を受け、当該分野に関心のある研究者や学生と交流することで、私の心の理論に関する知識を最先端の水準まで高めた。さらに集中講義に引き続き甲南大学の学生との合同勉強会を開催し、心の理論を研究する他大学の学部生グループと SFC に立ち上げたグループの今後の連携に向けての基礎を確立した。



Figure1: 開催地 心の未来研究センター(公式ページより)

参加目的



Figure2: セミナーの様子(実行委員会 HP より) のススメに参加し、日本において心の理論の研究をリードする研究者達から講義を受け、彼らとディスカッションを行った。意識学のススメに引き続き、私が以前生理学研究

心の理論は勃興間もない分野であることから、成書や先行研究が豊富ではない。私的に勉強会を開催し基礎的な学習を行ってきたが、解くべき最新の問題を発見し研究を推進するためには、実際に心の理論に取り組んでいる研究者に薫陶を受け、ディスカッションすることが不可欠な局面に至った。従って今回のプロジェクトでは青山研を主体とする心の理論に関心がある学生グループと共に意識学

所のサマートレーニングコース(<http://www.nips.ac.jp/training/2016/>)に参加した際に面識を得た甲南大学の学部生である安崎未来氏らのグループと共に、合同勉強会を開催し今後の連携の基礎を確立した。それらの成果をもって、最終的な目的である、SFC 内に心の理論を研究し学術論文を Publish する事を目的としたグループを立ち上げる事、に成功した。

活動の成果

11/30 に新幹線で移動し、12/1-2 に京都大学心の未来研究センターで開催された意識学のスミエ集中講義に参加した。同講義では日本において意識研究をリードするアラヤブレインイメージングの金井良太氏(<http://www.araya.org/>)がスピーカーとなり古典的な哲学の思考実験から心の理論、NCC、そして最新の統合情報理論やグローバルワークスペース理論に基づいた意識と心の研究を歴史と共に概観した。当該の分野は未だ未成熟であり「意識」や「心」といった基本的な言葉遣いの定義すら確立されていないが、神谷氏や笹井氏ら当該の分野に精通し、意識や心の研究に肯定・否定(意識や心は科学の俎上に載せるにはまだ早い)の様々な立場をもった多くの研究者たちと共に議論を行う中で、私と、共に参加した SFC の学生のグループは、首尾よく今後私たちが取り組める大きさの研究テーマの種を見つけることができた。引き続き甲南大学のグループとの合同勉強会では集中講義で得た知見を元に今後取り組むべき研究テーマの策定と研究の分担など連携基盤の確立を行うことに成功した。

今後の課題

青山研のメンバーを中心として SFC 内に心の理論研究グループを立ち上げ、取り組むことが可能な大きさの研究テーマを策定することに成功したので、今後は甲南大学のグループと分担しつつ、まずはさらなる先行研究のサーベイが必要となる。また現実的に accept を狙うことができる雑誌を複数視野に入れることができたので、実際にどの雑誌にへの投稿を目標とするかもメンバーと共に決定することが課題である。

謝辞

本プロジェクトを実施するにあたり、指導教員である青山敦准教授や研究室の先輩である長野祥大氏、上野太郎氏に多大な御指導を頂いた。ここに心より感謝の意を示す。また、本プロジェクトは慶應義塾大学湘南藤沢学会の助成を受けることで実行することができた。このような機会を手助けいただいた事に対し、合わせてここで感謝する。